開催地名	大分県 九重町
開催日時	令和6年11月1日(金) 10:00～11:30
開催場所	九重町立野上小学校
語り部	吉田　亮一(宮城県仙台市)
参加者	児童107名　教職員等関係者23名　計130名
開催経緯	数十年に一度の大災害が各地で起きており、当町でも、令和2年、令和3年と水害を経験した。 南海トラフ地震などの災害に対する様々な課題があり、防災に対する意識を高める必要性を感じている。 本事業の語り部の方から話を聞くことで、自然災害に対する見識を広め、防災意識の向上を図りたい。
内容	(1)2011年3月11日金曜日 14時46分 震度6強..... なぜ自然災害は起こるのか？地球は生きているから、雨が降ったり風が吹いたり、地震や竜巻、台風などが起きる。 地球が生きているから自分たちも生きていけるのだから、共に生きなきゃいけない。そのためには、普段の備えが大事になる。 考えただけではなく、行動に移すこと。考えて、行動する癖をつけるようにする。 (2)考えて行動に..... ・断水したら？お皿が洗えないから、お皿にラップを敷いて使う。 ・散らかっている部屋だと？停電したらつまずくので、部屋は整理整頓しておく。 ・自分の部屋のどこが危険なのかを考える。キャスター付きのものは動くのでストップをかける。棚には突っ張り棒を使用する。 自分がどこに寝ているのかを確認。タンスなどが倒れてこないような位置になっているのか。 ・揺れから守る。机の下に入り、脚は平行ではなく斜めの脚の上部を持つ。階段にいたら後ろ向きになり、しゃがみ階段につかまる。 ランドセルを背負い、カバーを頭の上に。(背中も頭も守れる) ・寝ている時の守り方。「だんご虫」のように丸まる。もし上に物が倒れてきても腕の力と足の力で押し、隙間を作れるようにする。 ・家族でどこに避難をするのかを話し合おう。災害後すぐに避難所が開設されるわけではないので避難所以外の所を決めておく。 (3)揺れの災害での避難所では..... 常に大人がいるとは限らない。当時の避難所では、大人は会社の被害の片付けをするために会社に行ってしまう人が多かった。 3/12の早朝にいたのは子どもと高齢者が多かったので、子どもたちが自ら避難所の運営を始めた。 大人がやれば良いのではなく、出来る人たちでやらなくてはならない！という状況。中学生は避難物資の数を数え台帳を作成、整理整頓。17日間の炊き出しのメニューを考えてくれた。 小学生がバケツにくんだ水をポリタンクに入れ、高校生や大学生がポリタンクを運ぶ等。 ・小学生のみんなに約束してもらいたいこと、『いつも皆が助け合い、協力をして命の大切さと人を思いやる気持ちで仲良く暮らし災害に勝ちましょう』

開催地より	昨年から引き続き、災害への備えや防災の知識、避難所の設置などについて、東日本大震災で体験されたことを話していただいた。避難所開設の体験や非常食の実演など子どもたちが熱心に参加していた。今後も町の防災力の向上に努めていきたいと思う。